



真宗大谷派 (東本願寺) 天満別院

# 六字城

730号

2025  
9/1

大阪市北区東天満1-8-26  
06-6351-3535  
代表者 輪番・奥林曉

## 貧しい？画家

遠い昔のインドです。あるところに貧しい画家がありました。家族を養える絵を描くために旅にでました。  
ある時、沢山の立派なお寺のある街にたどりつきました。画家はお寺を順にお参りしました。どのお寺も美しくお供え物が溢れていました。ふと通りかかったお寺の前で、貧しい身なりの女の人が手に何かを持ってお寺へ入ってゆくとすれ違いました。

画家が歩みを止めたのは、彼女が身なりとは違う豊かな表情をしていたからでした。画家はすぐにその場でそのお寺の絵を描きました。お供えを捧げる彼女の背中から静かな清い光が溢れていました。

画家のまわりには何人もの人が集まり、画家の熱意の筆に吸い込まれていました。画家が絵筆をおくと、見とれていた一人の老人が画家に言いました。

「その絵をわしに売ってくださらんか。このお寺に是非お供えしたいのじゃ」

画家は自分の感動がこもった絵と別れたくはなかったのですが、その老人の気持ちに自分と通い合うものを感じて売りました。

まったく思いもかけない高額を渡されて画家

## ご案内

### 報恩講お待ち受け奉仕のお願い

左記の通り、来る10月の報恩講をお迎えするにあたりご門徒の皆様とともに、おみがき・各部屋の清掃のお手伝いを、お願いしたいと存じます。

ご参加をお待ちしております。  
※昼食を用意していません。

### 記

日時 9月29日(月) 9時から

場所 天満別院 本堂

服装 汚れても構わない服

### 今月の伝道掲示板

願わざれども

花は咲き

願えども

花は散る

— 佐々木蓮唐 —

地域のお客様の毎日に、「おいしい」「ワクワク」「ハッピー」をお届けするスーパーマーケット

## ライフ東天満店

〒530-0004  
大阪市北区東天満  
1-8-14  
TEL 06-6357-1100



寺町という歴史ある地域に  
根ざした老舗葬儀社

## (株) 天満花重

〒530-0041  
大阪市北区天神橋 3-4-6  
電話 (06)-6351-3875  
FAX (06)-6351-6260

～ご縁を大切に～

## 日下念珠店

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下る  
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255  
https://www.kyo-kusaka.jp

は驚きました。すると近くのお寺から大勢のお坊さんの静かな行列が出てきました。お食事の接待を受けに行くところでした。画家はその光景にまた心を強く打たれて、行列の最後のお坊さんに尋ねました。

「明日のお接待は決まっていますか？」

「いいえ」

「ではこれを明日のお接待にお役立てください」

「帰りを待ちわびる画家の妻は話を聞いて怒り狂い、その場で夫を追い出してしまいました。家を背に歩きだした画家はすれ違った商人に呼び止められました。」

「失礼ながら身なりとは違う表情が私の足を止めた。話を聞かせてくださらんか」

「画家は一部始終を話しました。商人は笑って言いました。」

「今度は私が喜ぶ番のようだな」

商人は画家を家に連れていき、美々しく飾り立てた馬と、豪華な衣装や高価な宝石の指輪まで与えて画家の家へ帰させました。

「ここは貴方様の家ではありません」

「妻は驚いて入り口を閉ざしました。」

「おやおや、夫の顔を忘れたのかい？」

「昔、親から聞いたのだが『真心の一滴の水は大海よりも豊か』だと。あのお寺へ真心の一滴を捧げた貧しい女性のお陰だ・・・」

「悪うございました。お恥ずかしうございます」

「妻はポツリと言いました。」

《出典 『大莊嚴経論』 卷四 「二十一」 話  
弗羯羅城の畫師羯那設食して報を獲る縁》

# 秋季彼岸会

並

## 総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時 **9月21日(日) 13時30分**

講題 **「踏み出せば状況は変わる」**

法話 **北畠 顯諒師 (第21組本通寺住職)**

ご講師からのメッセージ

お彼岸になりますと、頭に浮かんでくるのは、眼前の、炎と渦が巻く河の対岸に阿弥陀如来。わずか4~5寸の細い道。いわゆる二河白道の図でした。私は刑務所や少年更生施設で教誨師に任じられています。そこで彼岸会法要が勤まりますが、収容者の参拝は自由意思ですので、参拝者を募集するポスターが創られました。そのポスターを見て驚きました。河の岸につながる道に踏み出した男性は杖を持ち、2メートル程の幅広の道を歩んでいるのです。二河白道の事、知らんのかと思いました。しかし、ジッとみているうちに、そうか一歩踏み出せば状況は変わるということだと気づきました。

最近、お彼岸が近づくと、躊躇していることはないかと考えるようになってきました。

### Q&A

#### お内仏の御移徙(おわたまし)って何？



真宗門徒は「お仏壇」に阿弥陀如来を御本尊として安置して「お内仏」と呼んで大切にしています。阿弥陀如来は色も形も匂いもなく、私たちを救おうとする真実のはたらきです。お内仏はお浄土の世界を形であらわしたものです。ご先祖様方は、日々生かされていることに感謝して礼拝し、家庭生活の拠り所として受け継いできました。

#### 答え

門徒さんから、家の建て替えや引っ越しで、お仏壇を動かすので魂を抜いてください、入れてくださいとかお願いされることがあります。真宗ではお仏壇の魂を入れたり抜いたりすることはありませんよとご説明をしてお勤めをするように心がけています。

さて、御移徙とは、もともとは、貴人が新居に転居することをさす尊敬語であったそうですが、そこから転じてお仏壇に阿弥陀如来をお迎えすることを意味する言葉となりました。

御移徙では、お荘厳(荘り付け)をします。上卓・前卓には打敷をかけ、五具足(花を一对・香炉・鶴亀の燭台を一对)を整えてお勤めをします(お内仏の大きさによっては三具足でもよいと思います)。一生の間に何度もあるようなことではありませんが、できるだけご家族集まってお手次のご住職を招いて大切にお勤めいただきたいと思っています。

(第15組 安通寺 楠本史朗)

#### 定例法話 開催

去る7月12日(土)本堂に於いて定例法話が開催されました。大阪教区駐在教導 上場 直裕師をお迎えし、講題「東西分派と天満別院」のもとお話しいただきました。



大阪教区駐在教導 上場 直裕 師

#### 暁天講座 開講

去る7月27日(日)・8月2日(土)暁天講座が開講されました。御講師には本願寺派如来寺 釈 徹宗師をお迎えし、講題「柔らかな心と堅い心」・「ことばと仏教」についてお話しいただきました。



本願寺派如来寺 釈 徹宗 師

#### 盂蘭盆会 勤修

去る8月13日(水)盂蘭盆会が勤まりました。御講師には第6組 願光寺住職 茨田 通俊師をお迎えし、講題「亡き人から願われている私」についてお話しいただきました。

師は、「お浄土は都合の良い願いを叶える場所ではなく、また愛する人のために尽くそうという純粋な気持ちをもってしても成就しない世界。好き嫌いの感情を超え、誰もが分け隔てなく共に出会える場所である。思うようにならない世の中を、思うようになるのではなく、思うようにならない事実を受け止め、生きていく知恵。これが仏法である」と仰られた。



第6組願光寺 茨田 通俊 師